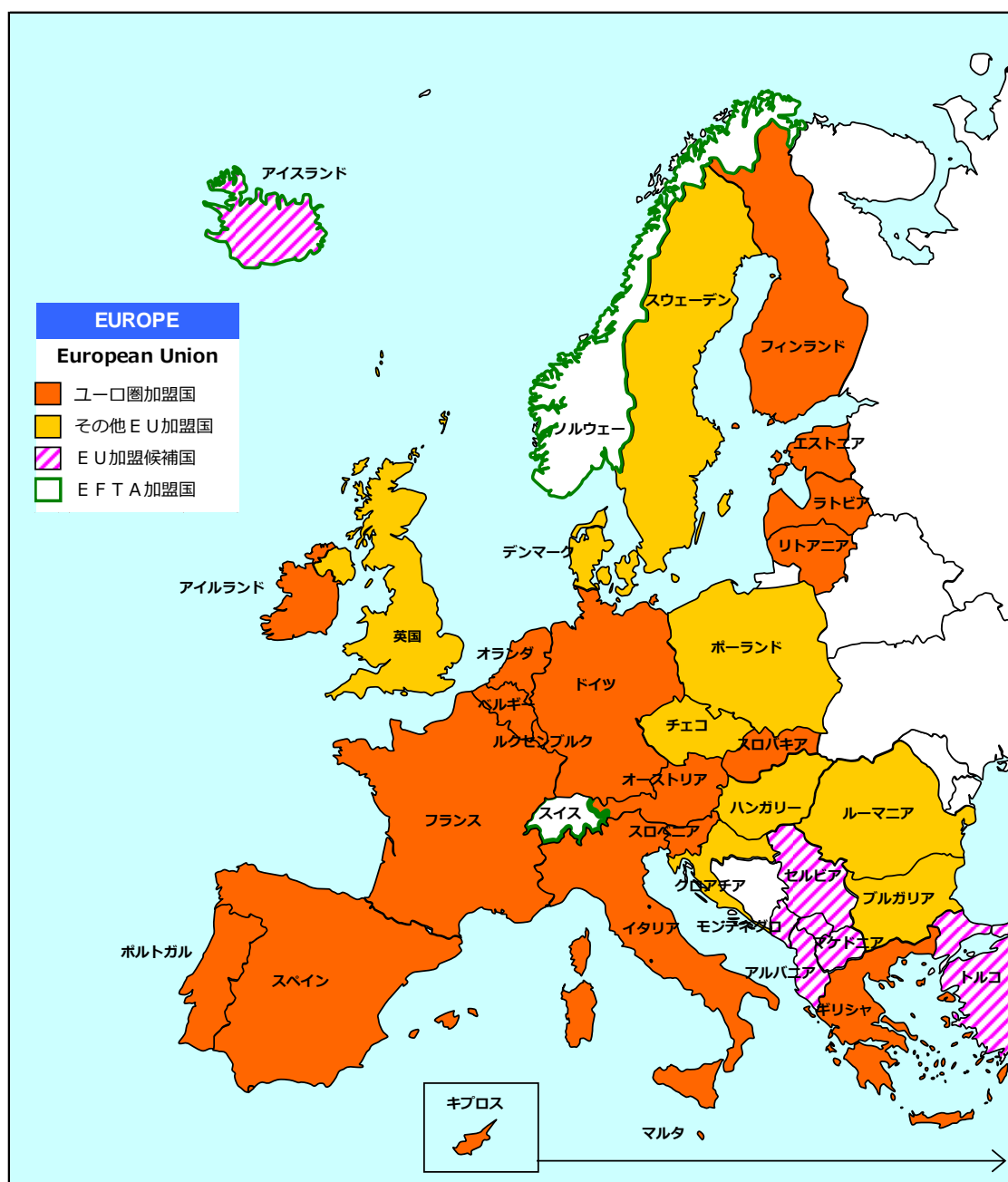


# 欧州経済アップデート (2015.3)

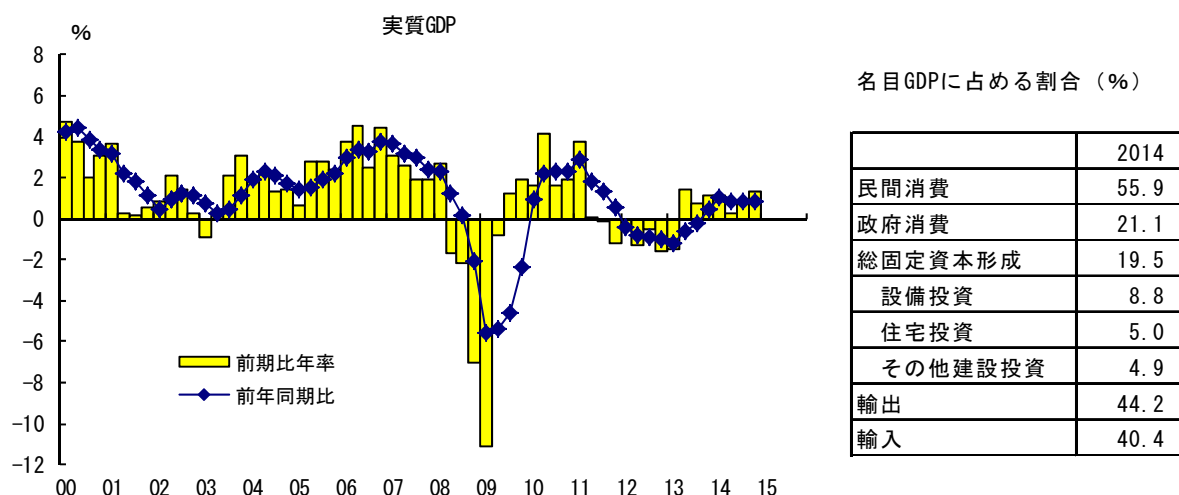
経済調査部  
シニアエコノミスト 山崎 加津子



出所：三角形「白地図専門店」サイトより大和総研作成

## ユーロ圏 GDP

- 14年Q4の成長率（2次推計）は前期比+0.3%とQ3の同+0.2%から若干加速した
- 個人消費が前期比+0.4%とQ3に引き続き堅調な伸びとなったのに加え、総固定資本形成も同+0.4%とプラス成長
- 14年Q4の純輸出寄与度は前期比+0.2%ポイントとプラス寄与に転じた



ユーロ圏の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3	14Q4
実質GDP	-0.1	-0.3	-0.1	-0.4	-0.4	0.3	0.2	0.3	0.3	0.1	0.2	0.3
個人消費	-0.3	-0.5	-0.2	-0.5	-0.2	0.1	0.2	0.1	0.2	0.2	0.5	0.4
政府消費	-0.1	-0.1	-0.1	0.0	0.2	0.1	0.2	0.0	0.2	0.2	0.2	0.2
総固定資本形成	-1.3	-1.1	-1.0	-0.4	-2.2	0.7	0.6	0.5	0.4	-0.5	0.0	0.4
設備投資	-1.2	-1.3	-1.0	0.2	-1.9	1.1	0.4	1.3	0.1	0.5	0.6	0.0
住宅投資	-0.6	-0.5	-1.0	-1.0	-2.3	0.3	0.7	-0.6	1.2	-1.4	-0.5	0.9
その他建設投資	-2.3	-1.5	-1.0	-1.0	-2.7	0.2	0.9	0.1	0.3	-1.7	-0.7	0.7
輸出	1.3	0.7	0.9	-0.9	0.4	1.7	0.6	0.8	0.4	1.3	1.5	0.8
輸入	0.5	-0.4	0.0	-0.7	0.1	1.3	1.5	0.2	0.6	1.3	1.7	0.4

ユーロ圏の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

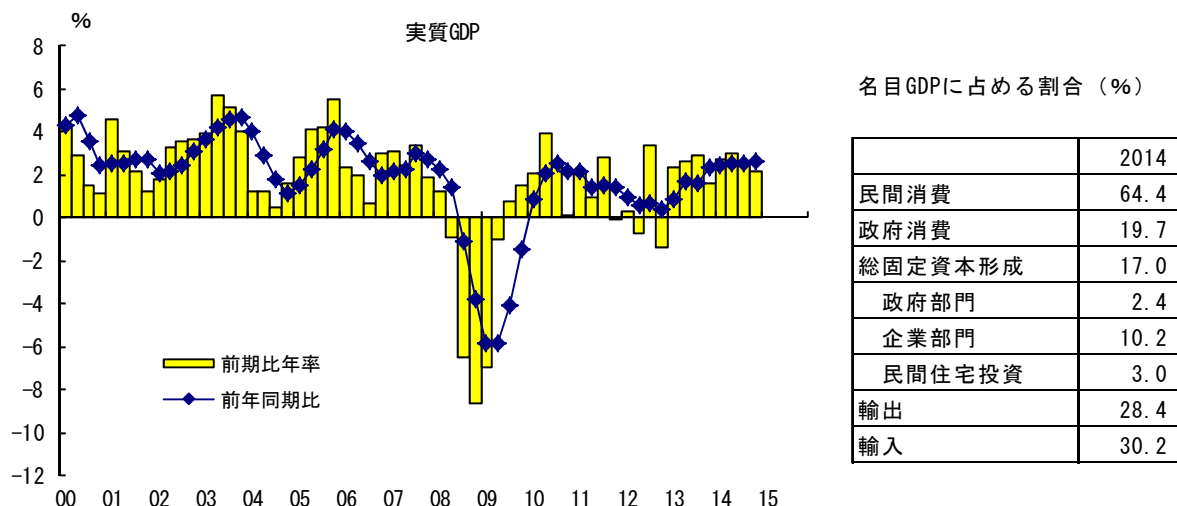
	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3	14Q4
実質GDP	-0.10	-0.32	-0.13	-0.41	-0.37	0.35	0.18	0.27	0.28	0.07	0.18	0.33
個人消費	-0.15	-0.27	-0.11	-0.25	-0.13	0.07	0.08	0.08	0.12	0.13	0.28	0.24
政府消費	-0.03	-0.02	-0.03	-0.01	0.03	0.03	0.04	0.01	0.05	0.03	0.05	0.04
総固定資本形成	-0.27	-0.23	-0.21	-0.08	-0.44	0.13	0.13	0.10	0.08	-0.11	0.00	0.08
設備投資	-0.11	-0.13	-0.10	0.02	-0.19	0.11	0.04	0.13	0.01	0.05	0.06	0.00
住宅投資	-0.03	-0.03	-0.05	-0.05	-0.12	0.01	0.04	-0.03	0.06	-0.07	-0.02	0.05
その他建設投資	-0.13	-0.08	-0.05	-0.05	-0.14	0.01	0.05	0.00	0.02	-0.08	-0.03	0.03
在庫変動	0.00	-0.27	-0.17	0.04	0.06	-0.10	0.27	-0.16	0.06	-0.03	-0.11	-0.25
輸出	0.52	0.29	0.37	-0.37	0.16	0.74	0.26	0.33	0.19	0.56	0.65	0.37
輸入	-0.18	0.17	0.01	0.26	-0.05	-0.51	-0.58	-0.10	-0.23	-0.52	-0.68	-0.16
純輸出	0.34	0.46	0.37	-0.11	0.11	0.23	-0.32	0.23	-0.04	0.05	-0.02	0.21

出所：Eurostat、Haver Analytics データより大和総研作成

\*このレポートに掲載しているユーロ圏データに関するおことわり  
 ユーロ圏とは、EU加盟国のうち単一通貨ユーロを導入し、金融政策を欧州中央銀行（ECB）に委ねている国々のこと。15年1月にリトアニアが19番目の加盟国となった。このレポートに掲載されているユーロ圏のデータは、2015年データが公表されているものは19カ国ベース、まだ2014年までのデータしか出ていないものは18カ国ベースである。

## 英国 GDP

- 14年Q4のGDP成長率（2次推計）は前期比+0.5%とQ3の同+0.7%から減速した
- 14年Q4は個人消費が前期比+0.3%とQ3の同+0.7%から減速し、また総固定資本形成が同-0.5%とマイナス成長に転じるなど、内需が軟調
- 一方、輸出が前期比+3.5%と高成長を遂げ、純輸出寄与度は同+0.6%ポイントを記録した



英国の需要項目別GDP成長率（前期比：%）

	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3	14Q4
実質GDP	0.1	-0.2	0.8	-0.3	0.6	0.6	0.7	0.4	0.7	0.8	0.7	0.5
個人消費	0.3	0.3	0.1	0.5	0.5	0.4	0.5	0.3	0.6	0.5	0.7	0.3
政府消費	3.5	-2.6	0.6	0.1	0.2	-0.7	0.5	-0.1	0.2	1.4	0.5	0.0
総固定資本形成	-0.1	-1.6	-0.9	1.1	1.0	0.6	2.7	2.3	2.4	1.3	0.5	-0.5
政府部門	7.9	-2.0	-12.9	1.7	-0.1	-3.2	0.1	1.3	12.7	-13.1	10.6	0.9
企業部門	0.2	-0.8	3.1	0.9	1.0	-0.4	3.8	2.7	1.3	3.4	-1.2	-1.4
民間住宅投資	-2.6	-4.5	-1.2	0.2	0.8	5.8	1.5	1.1	1.3	2.5	0.0	1.1
輸出	-0.1	-0.8	2.0	-1.6	0.6	4.6	-3.4	-1.3	1.8	-0.3	-0.8	3.5
輸入	1.1	0.2	1.6	-0.8	-2.2	3.8	1.9	-1.4	1.0	-1.3	1.4	1.3

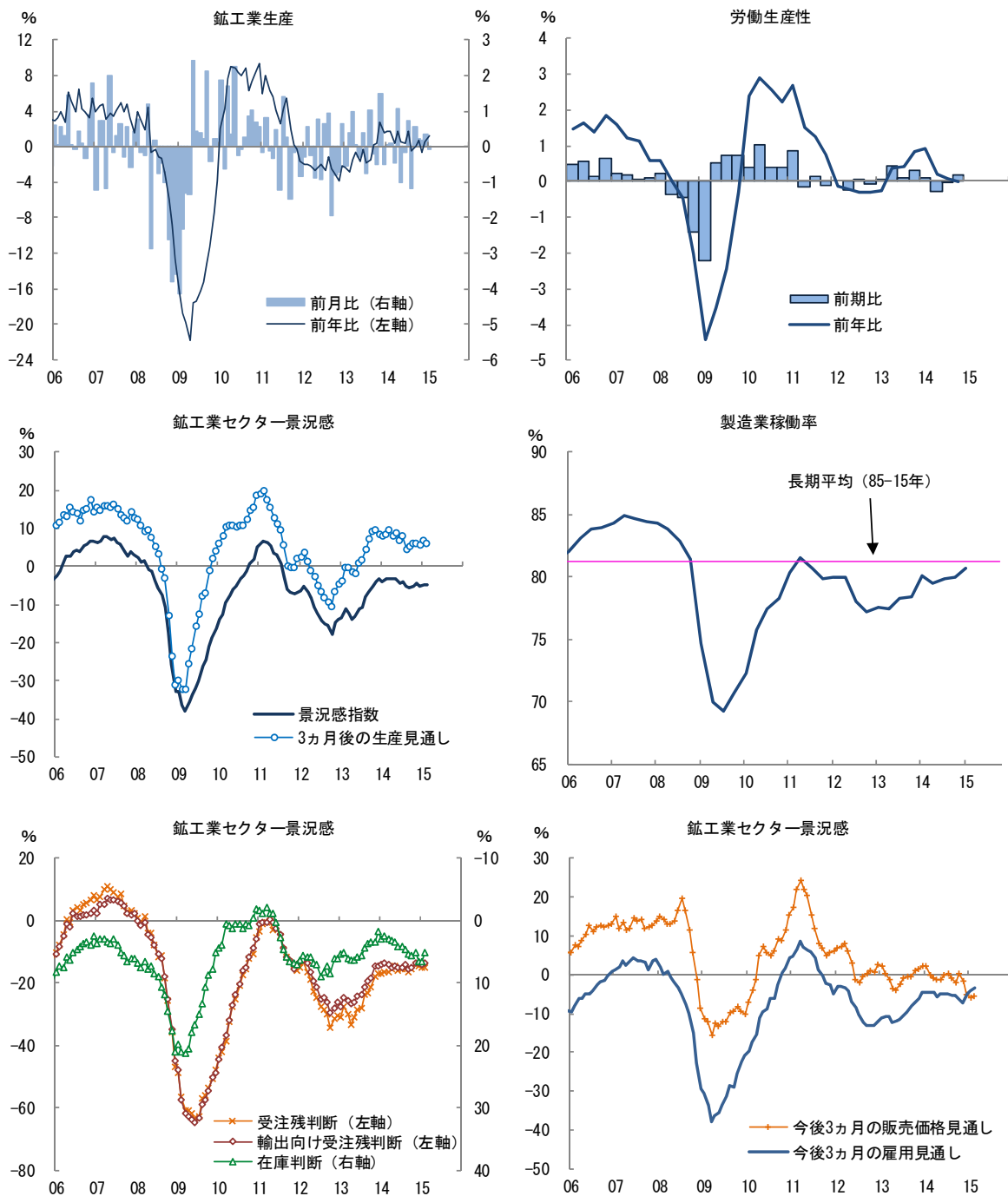
英国の需要項目別GDP寄与度（前期比：%）

	12Q1	12Q2	12Q3	12Q4	13Q1	13Q2	13Q3	13Q4	14Q1	14Q2	14Q3	14Q4
実質GDP	0.07	-0.18	0.83	-0.34	0.60	0.64	0.72	0.41	0.68	0.75	0.66	0.55
個人消費	0.20	0.21	0.09	0.29	0.34	0.26	0.35	0.21	0.36	0.33	0.44	0.21
政府消費	0.74	-0.55	0.13	0.03	0.05	-0.14	0.10	-0.01	0.04	0.30	0.10	0.01
総固定資本形成	-0.01	-0.26	-0.15	0.17	0.17	0.09	0.43	0.38	0.41	0.21	0.08	-0.09
政府部門	0.20	-0.06	-0.35	0.04	0.00	-0.08	0.00	0.03	0.29	-0.33	0.23	0.02
企業部門	0.01	-0.08	0.30	0.09	0.10	-0.04	0.37	0.27	0.14	0.36	-0.13	-0.15
民間住宅投資	-0.08	-0.14	-0.04	0.01	0.02	0.17	0.05	0.03	0.04	0.08	0.00	0.04
在庫変動	-0.50	0.72	0.67	-0.58	-0.79	0.29	1.55	-0.24	-0.42	-0.44	0.72	-0.12
輸出	-0.02	-0.24	0.62	-0.51	0.18	1.41	-1.09	-0.41	0.53	-0.10	-0.23	1.05
輸入	-0.35	-0.07	-0.53	0.26	0.73	-1.24	-0.62	0.48	-0.33	0.42	-0.45	-0.43
純輸出	-0.37	-0.30	0.09	-0.25	0.91	0.17	-1.70	0.07	0.20	0.32	-0.68	0.62

出所：英国統計局、Haver Analytics データより大和総研作成

## ユーロ圏 生産

- 1月の鉱工業生産は前月比-0.1%と小幅に落ち込んだが、前年比は+1.2%と持ち直し
- 鉱工業セクター景況感は一進一退が続いているが、2月は1月に続いて小幅改善。構成項目の中で在庫判断が目立って改善した
- 鉱工業セクターの販売価格見通しと、雇用見通しが共にやや改善している

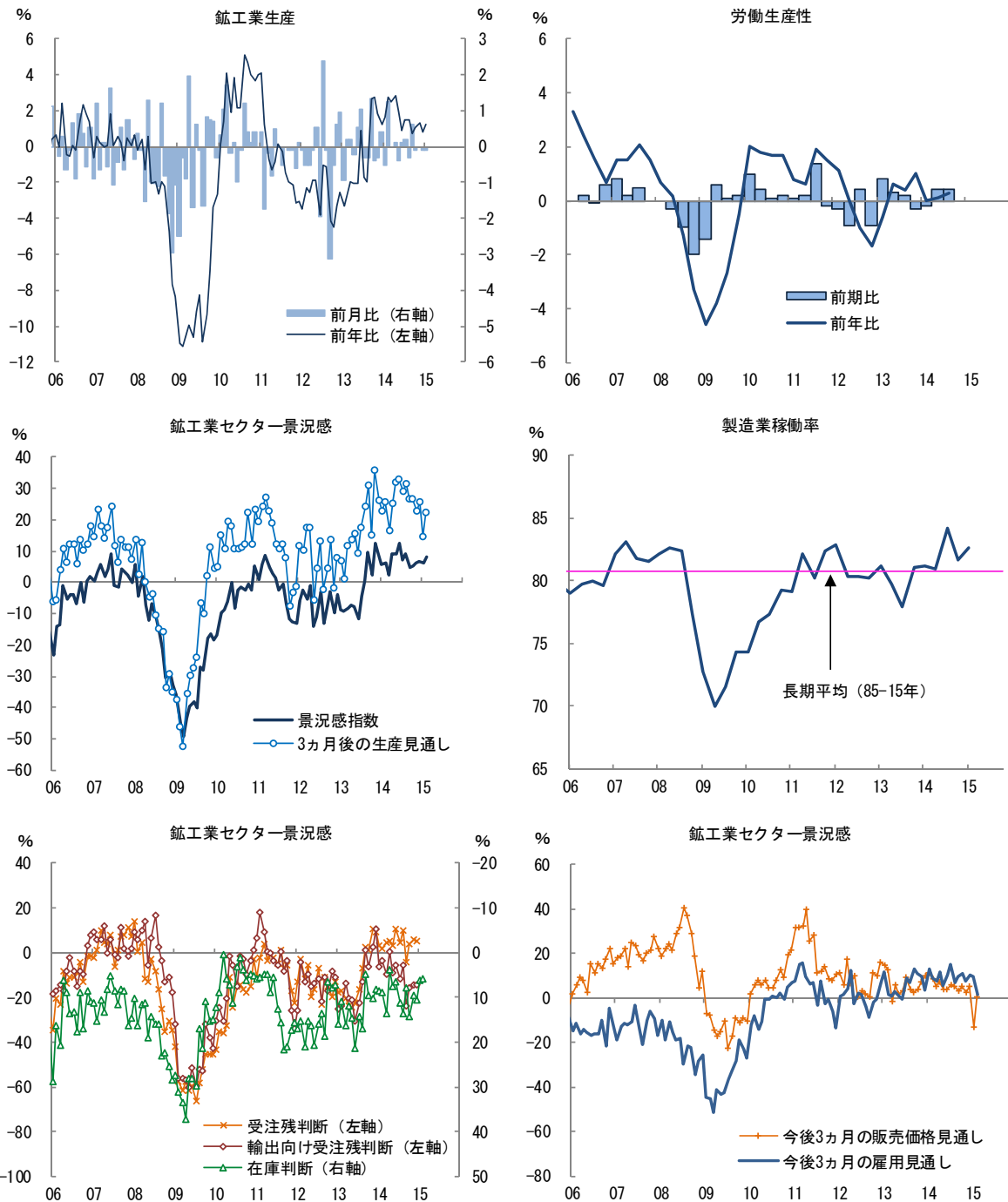


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、ECB、欧州委員会データより大和総研作成

## 英国 生産

- 1月の鉱工業生産は前月比-0.1%と4ヵ月連続で停滞。エネルギー生産は1月に持ち直したが、製造業生産が落ち込んだ
- 2月の鉱工業セクター景況感は改善。構成項目のうち、在庫判断が改善し、生産見通しも反発した
- 鉱工業セクターの販売価格見通しは1月の急落のあと、2月は持ち直し

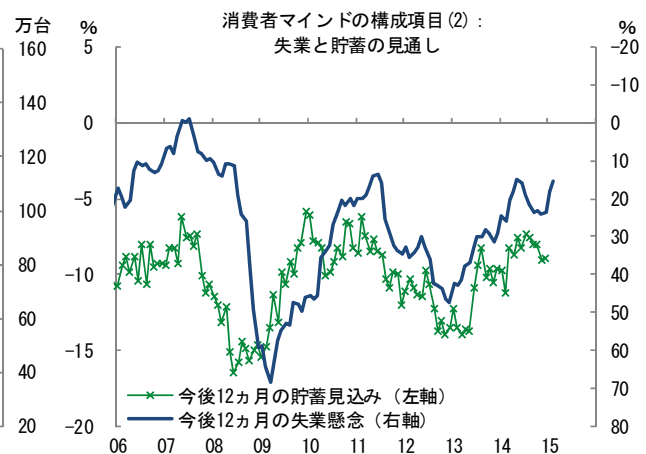
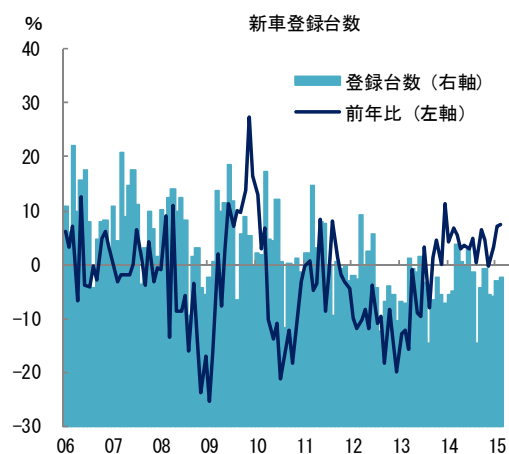
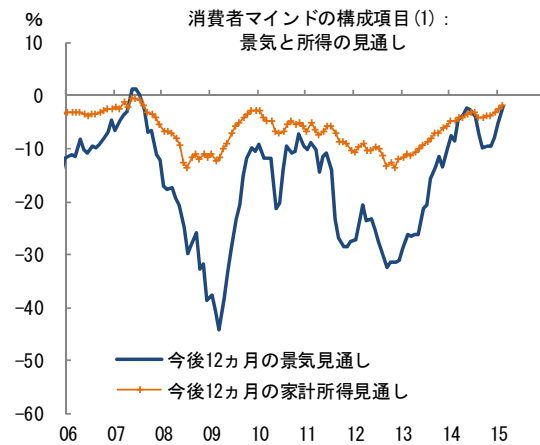
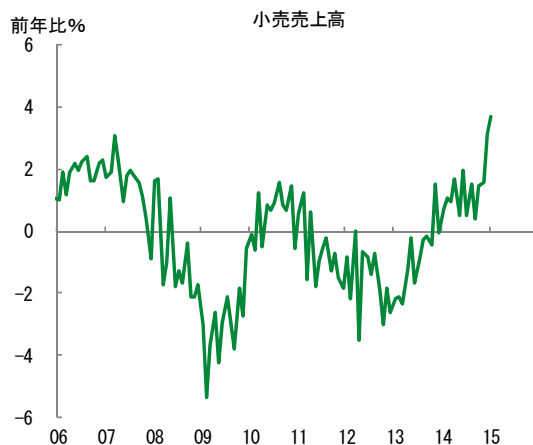
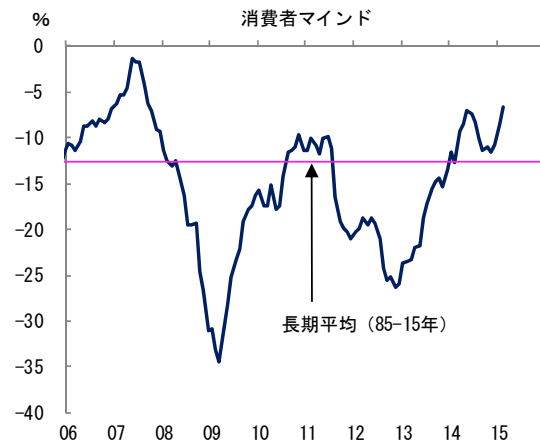
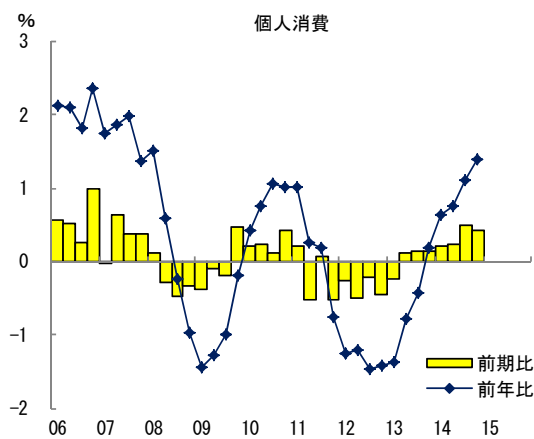


注：鉱工業セクター景況感の在庫判断は逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、Eurostat、欧州委員会データより大和総研作成

## ユーロ圏 消費

- 14年Q4の個人消費は前期比+0.4%と堅調な伸び。前年比+1.4%は08年Q1以来の高水準
- 1月の小売売上高は前年比+3.7%に加速。原油価格下落を受けてガソリン売上が同+5.9%拡大したが、ガソリンと食品以外の小売売上高も同+4.1%と堅調に伸びた
- 2月の新車登録台数は前年比+7.6%と伸び加速

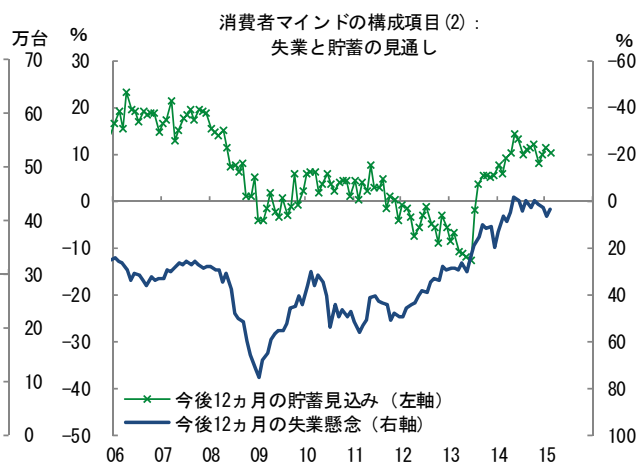
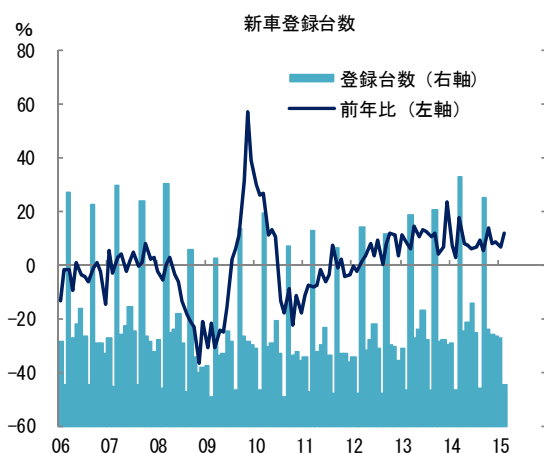
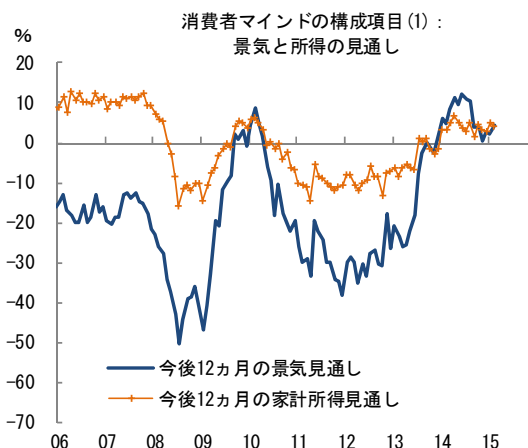
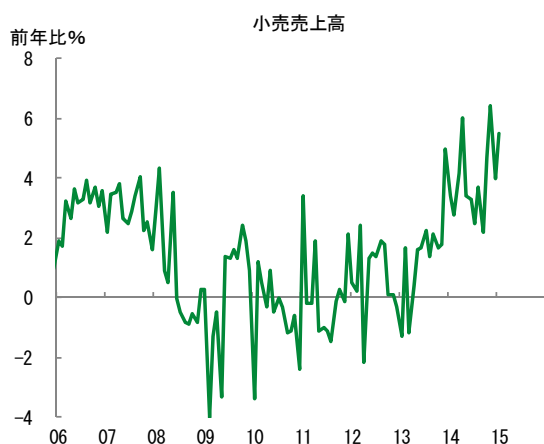
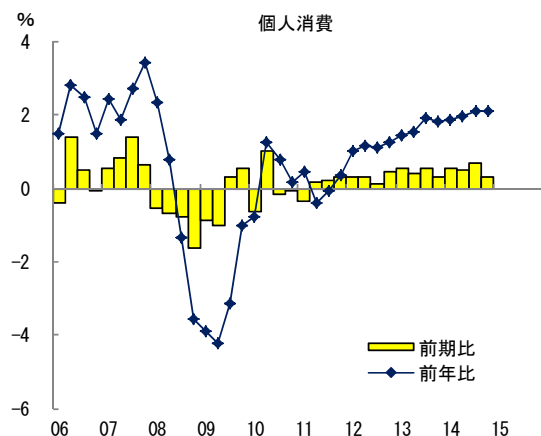


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：Eurostat、欧州委員会、ACEA データより大和総研作成

## 英国 消費

- 14年Q4の個人消費は前期比+0.3%とやや期待外れ
- 2月の消費者マインドは小幅改善。85-15年の長期平均は引き続き大きく上回っている
- 2月の新車登録台数は前年比+12.0%へ伸び加速

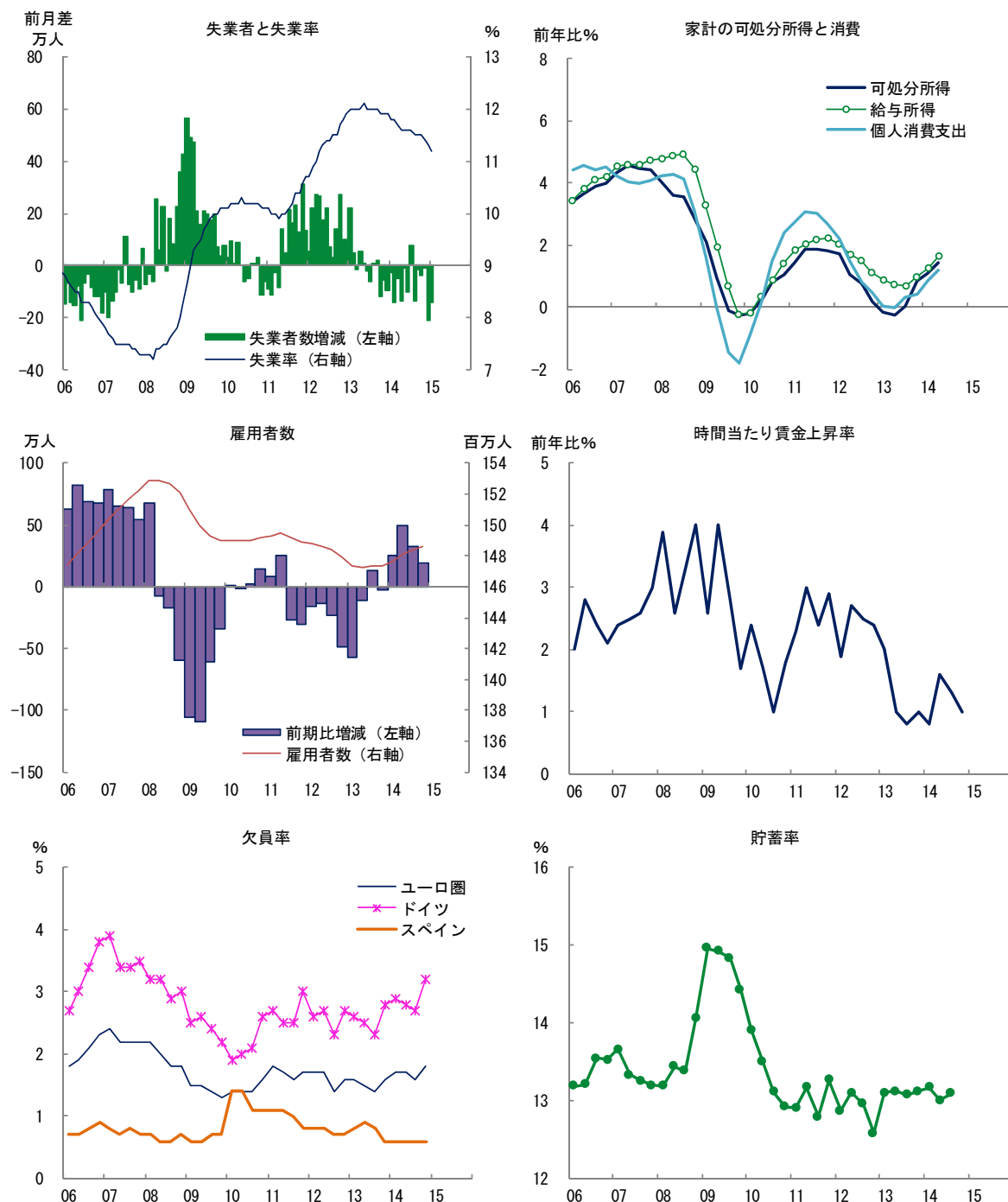


注：消費者マインドの構成項目は「大いに良くなる（増加する）」、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」、「大いに悪くなる（減少する）」の5つの選択肢から選ばれた回答を加重平均したもの。失業懸念のみ逆目盛（数値が小さいほど、景況感としては良好）

出所：英国統計局、欧州委員会、ACEA データより大和総研作成

## ユーロ圏 雇用・所得

- 1月の失業率は11.2%に低下。失業者数は1月には前月比14万人減となったが、スペイン（同4.5万人減）の貢献が大きかった
- 14年Q4の雇用者数は前期比19.5万人増の1億4,863万人となり、12年Q2の水準を回復
- 14年Q4の時間当たりの賃金上昇率は前年比+1.0%に低下したが、他方で欠員率は1.8%とほぼ4年ぶりの水準に上昇した



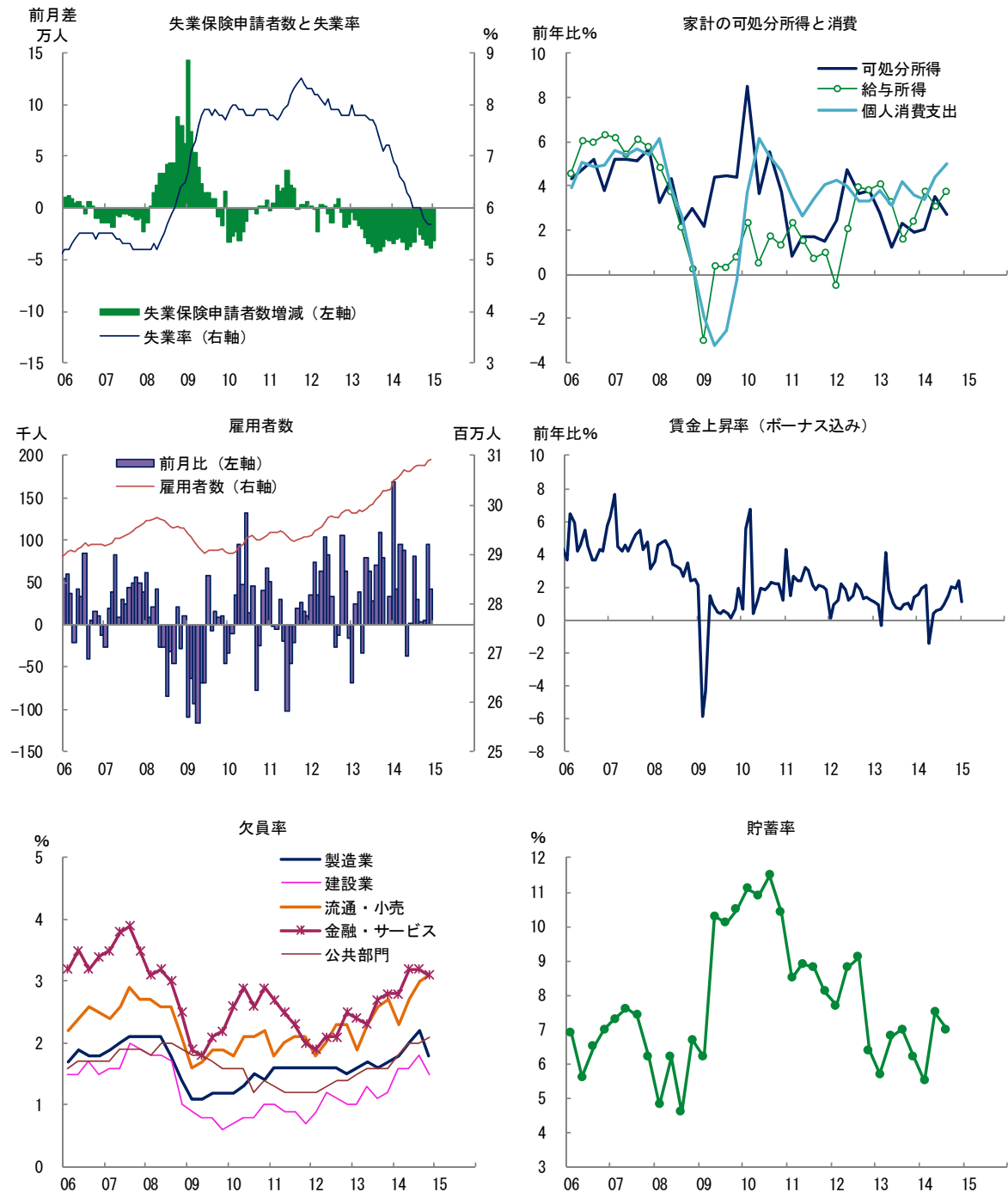
注：欠員率 (Job Vacancy Rate) = Number of job vacancies / (Number of occupied posts + Number of job vacancies) \* 100

出所：Eurostat、Haver Analytics、ECB データより大和総研作成



## 英国 雇用・所得

- 11-1月の失業率は5.7%で横ばい。ただし、2月の失業保険申請者数は前月比3.1万人減と28ヵ月連続で減少しており、失業率の低下傾向は継続しよう
- 12月の雇用者数は前月比4.3万人増の3,094万人
- 1月の賃金上昇率（ボーナス込み）は12月の前年比+2.4%から同+1.1%に減速した。11-1月の3ヵ月平均も同+1.8%と+2%台を割り込んでしまった

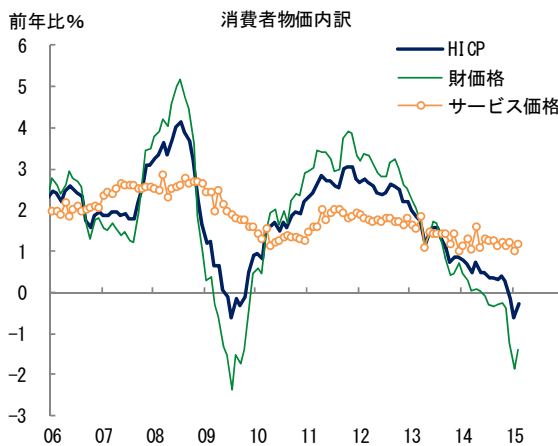
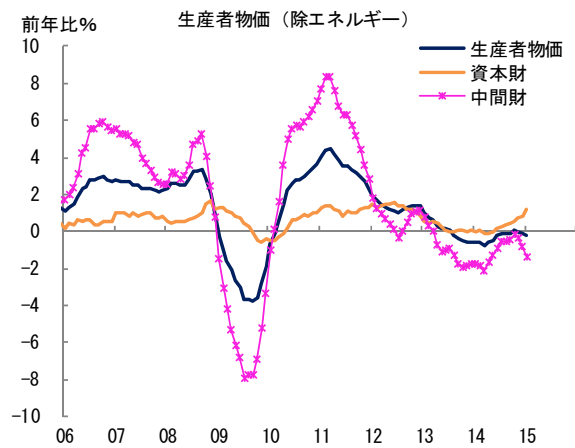


注：欠員率 (Job Vacancy Rate) = Number of job vacancies / (Number of occupied posts + Number of job vacancies) \* 100

出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成

## ユーロ圏 物価

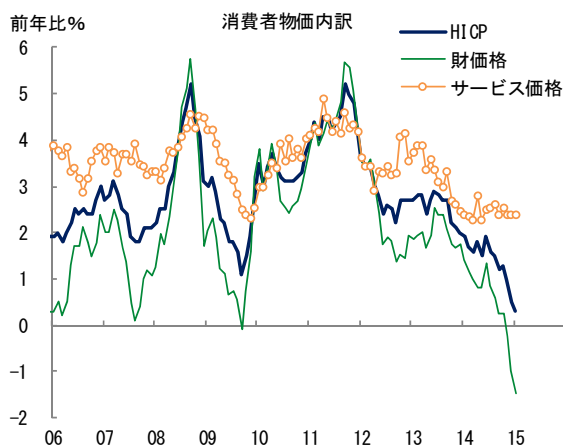
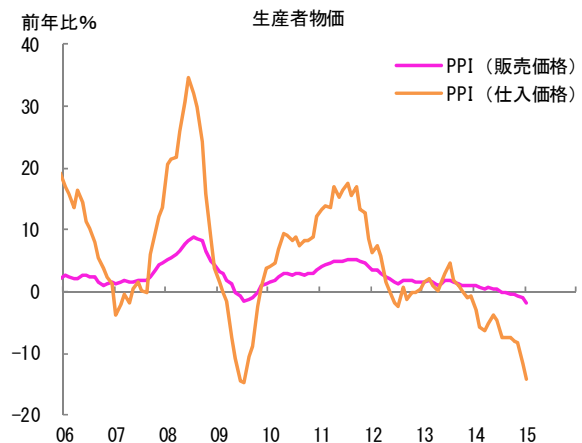
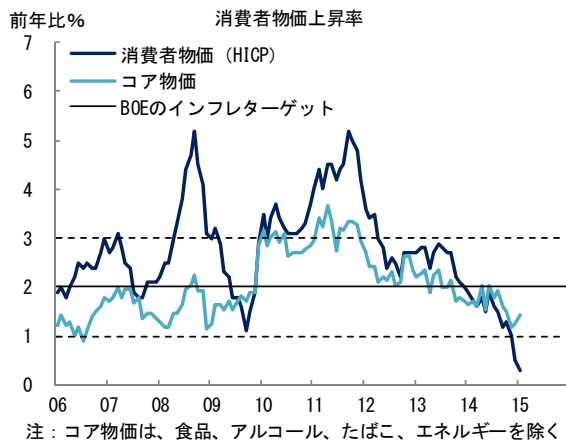
- 2月の消費者物価(HICP)上昇率は前年比-0.3%と1月の同-0.6%からマイナス幅が縮小。エネルギー価格が1月の同-9.3%から2月は同-7.9%に転じた影響が大きい
- 1月の生産者物価は前年比-0.2%。中間財価格が下落する一方、資本財価格は上昇
- 2月の原油価格(北海ブレント)は1バレル当たり58ドルと1月の48ドルから反発。一方、ユーロの名目実効為替レートは2月も続落した



出所：Eurostat、ECB、ドイツ連銀データより大和総研作成

## 英国 物価

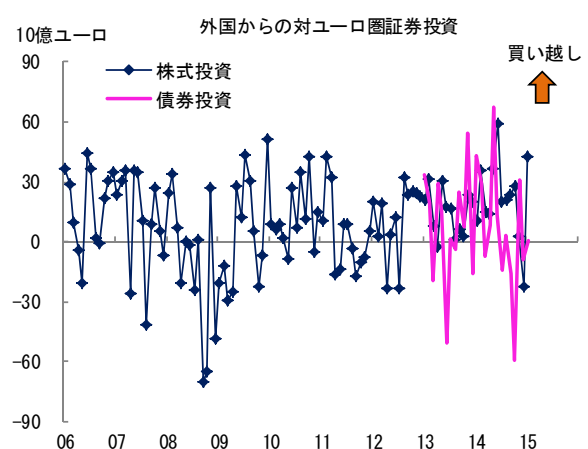
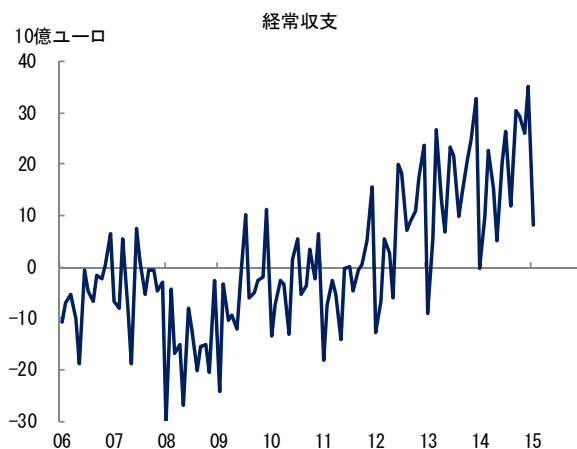
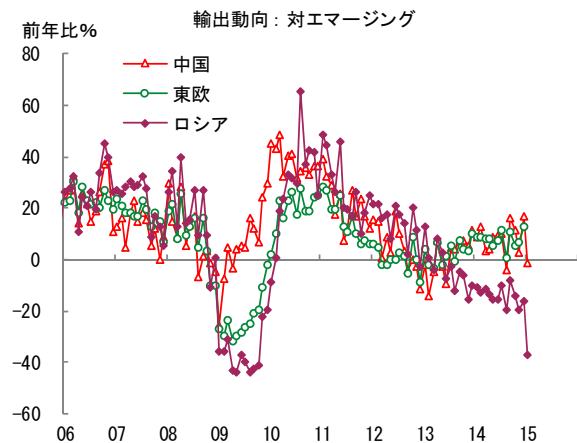
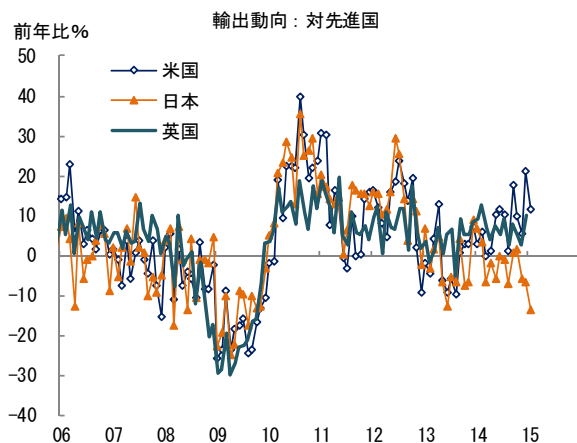
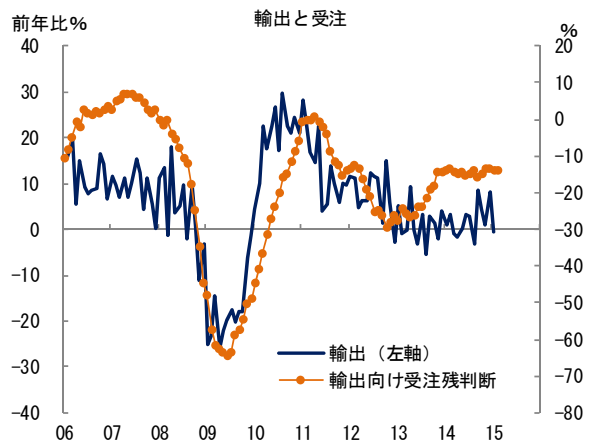
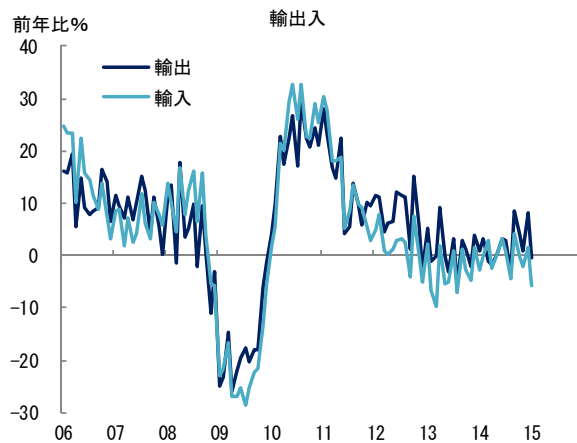
- 1月の消費者物価（HICP）上昇率は前年比+0.3%に低下。エネルギー価格が同-8.4%と落ち込んだ影響が大きい。なお、コア物価は同+1.4%と12月比で小幅加速
- 1月の輸入物価は前年比-6.3%と一段と下落。原油価格下落とポンド高の二重の物価下落要因が働いている
- ポンドの名目実効為替レートは2月も上昇し、2008年8月以来のポンド高水準に到達



出所：Eurostat、英国統計局データより大和総研作成

## ユーロ圏 国際収支

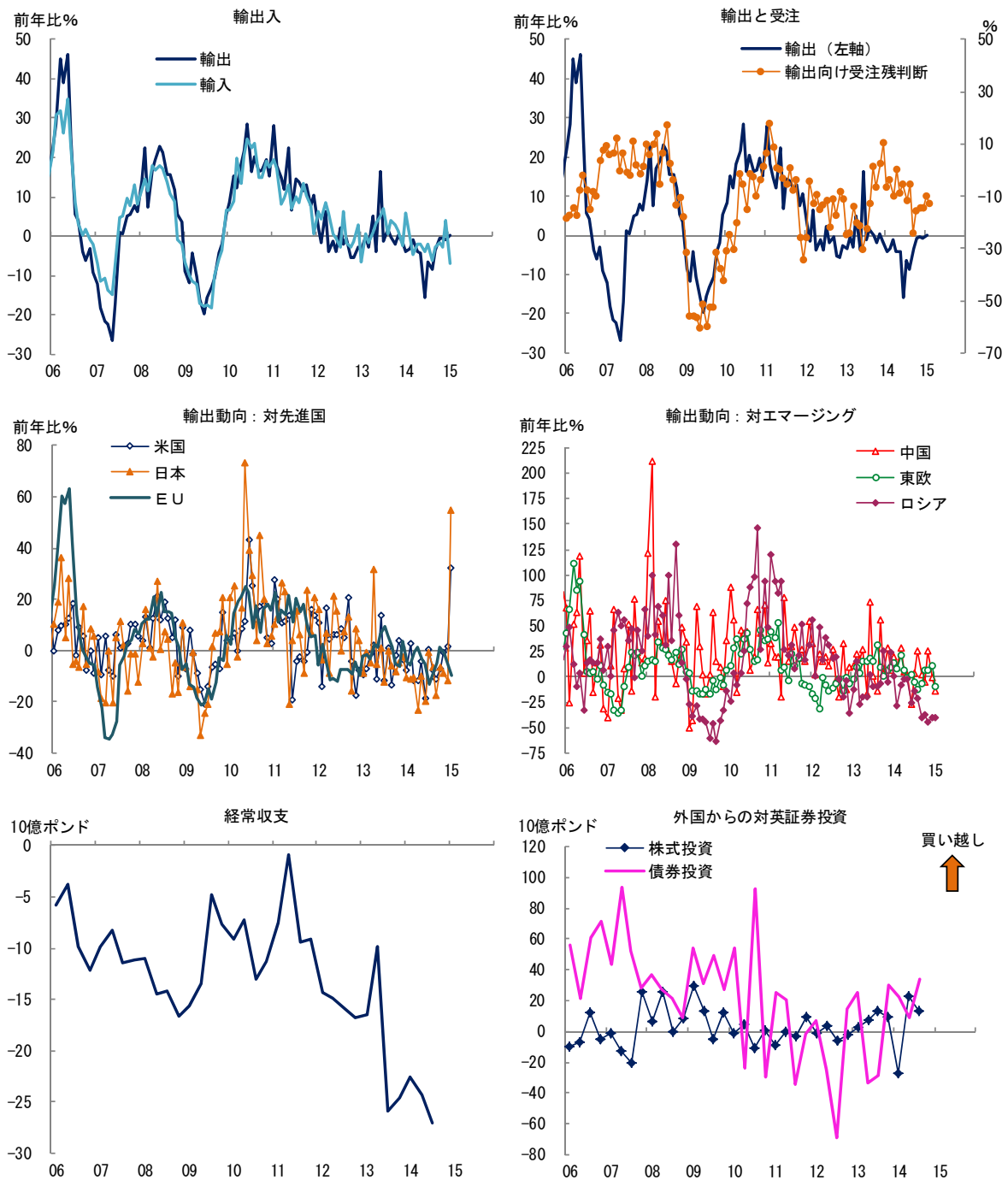
- 1月の輸出は前年比 $-0.4\%$ 、輸入は同 $-5.6\%$ とそろって落ち込んだ
- 国別輸出動向ではロシア向けに加え、日本、中国向けの伸びが急速に落ち込んだ
- ECBが大量の国債購入を通じた量的緩和策導入を1月22日に決定したことを背景に、1月の対ユーロ圏の証券投資では株式投資が大幅な買い越しとなった



出所：Eurostat、ECB データより大和総研作成

## 英国 国際収支

- 1月の輸出は前年比+0.1%となり、ごく小幅ながら14ヵ月ぶりにプラスの伸びとなった
- 国別輸出動向は米国向けが前年比+32.5%、日本向けが同+54.7%と急拡大した一方、EU向けは同-9.5%、中国向けは同-14.1%と大きく明暗がわかれた
- 1月の輸入は鉱物資源の輸入大幅減の影響で同-7.1%と大幅に落ち込んだ



出所：Eurostat、Haver Analytics、英国統計局データより大和総研作成